

キタゴヨウ

(学名: *Pinus parviflora* var. *pentaphylla*)

[マツ科 マツ属]



キタゴヨウは、只見町の全域に分布しています。雪食地形の尾根に馬のたてがみの様に筋状に生えている様子はとても特徴的です。年中見られる風景ではありますが、もしこの樹木がなければ、雪山はもっとのっぺりとした景観になってしまうでしょう。

キタゴヨウは、北海道南部、本州、四国、九州と全国に広く分布するゴヨウマツの変種であり、北海道と本州の中部地方以北のみに分布します。

一般的には亜高山帯の尾根や岩場などに生育しますが、只見町のような山地帯であっても、土壌が薄く他の植物が生えることができないような岩石地に分布していることがあります。高木の針葉樹で、高さ20~30mに幹が直立し、幹の直径は60~120cmほどになります。細長い針のような葉が5個ずつ束になって生えることからゴヨウという名前が付いています。キタゴヨウは、ゴヨウマツが葉の長さが4~8cmであるのに対して、6~10cmと長い点で異なります。

只見町では、ヒメコ、クロマツという方言名がついています。材は、薪炭材や梁や柱、敷板として用いられたほか、ゲンベエを編む際の型、川を堰き止めるためのカリヤスの材料になっていたそうです。「松迎え申し」として年の瀬に山の頂から迎えてきたマツは、正月の松飾りとして使われてきました。

ブナセンター講座

「八十里古道の歴史」

2014年3月23日(日) 午後1時30分~午後3時
講師:飯塚 恒夫 氏(只見町文化財調査委員)

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています



わたなべ ひさき
渡部 妃咲さん(黒谷)



ますだ たくみ
増田 巧くん(小川)



さいとう はく
齋藤 珀くん(只見)

虫歯のない子

 (2月25日)
 (3歳児健診)